



第 75 号

目 次

論 文

- 慈覚大師円仁入唐求法の成果  
—比叡山仏教の確立を期して—……………小南 妙覚 (1)
- 野宮家における家業の継承  
—野宮定之を事例として—……………佐竹 朋子 (25)
- 1911年デリー・ダーバーとジョージ五世  
—国王=皇帝によるインド社会との対面的コミュニケーションの試み—…本田 毅彦 (47)

研究ノート

- 東山大仏と豊臣政権期の京都  
—秀吉在世時を中心に—……………河内 将芳 (67)
- 天保期大坂における施行とその背景  
—『仁風便覧』版行経緯からの分析—……………鷺見 敦子 (81)
- マネトン『エジプト史』とヘレニズム世界  
—プトレマイオス朝エジプトにおける歴史認識の変化—……………星野 宏実 (1)

史料紹介

- アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリ―著  
『高貴なる用語の解説』訳注 (8)……………谷口淳一 編 (23)

- 彙 報…………… (101)

2 0 1 8 ・ 3

京 都 女 子 大 学 史 学 会

二〇一八年三月五日 印刷  
二〇一八年三月九日 発行

史 窓

第七五号

京 都 女 子 大 学 史 学 会

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 75

March 2018

Contents

Articles

- KOMINAMI Myokaku, The Results of Jikakudaishi Ennin's Acquirement of Buddhist Laws in Tang Changan: In Relation to Establishing the Hieizan Buddhism…………… (1)
- SATAKE Tomoko, Inheritance of Family Business among the Nonomiya Family: A Case Study of the Nonomiya Sadayuki…………… (25)
- HONDA Takehiko, The Encounter of a British King with his Indian Peoples: George V in the 1911 Delhi Durbar…………… (47)

Research Notes

- KAWAUCHI Masayoshi, The Daibutsu at Higashiyama and the Toyotomi administration in Kyoto…………… (67)
- WASHIMI Atsuko, Segyo (施行) in the Tempo era and its Background: Analysis from the "Zimpu binran" publishing history…………… (81)
- HOSHINO Hiromi, Manetho's *Aigyptiaka* and the Hellenistic World…………… (1)

Historical Documents

- TANIGUCHI Junichi(ed.), A Japanese Translation of Aḥmad Ibn Faḍl Allāh al-'Umarī's *al-Ta'rīf bi-al-muṣṭalah al-šarīf* (8)…………… (23)

- Miscellaneous…………… (101)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』  
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した  
とき(昭和29年)御書きいただいたものです。

# 京女史学会の一年 (1)

## 春季史学会旅行

3月27日(月)～28日(火)  
金比羅山・大山祇神社



大山祇神社にて



金比羅山本宮



宿泊先での会食風景

## 新入生歓迎バスツアー

4月5日(水)  
金閣寺、龍安寺



新入生本願寺参拝

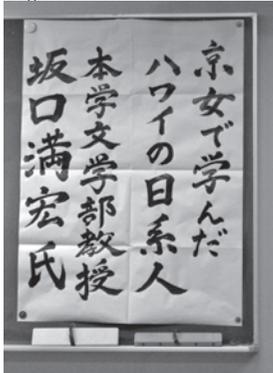


鹿苑寺金閣

# 京女史学会の一年 (2)

## 春季公開講座

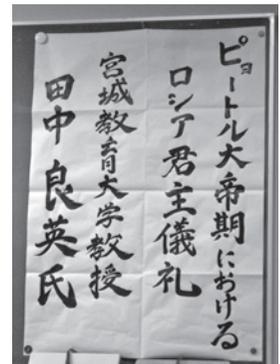
5月26日(金)



日本史の坂口満宏 教授



ゲストは宮城教育大学の  
田中良英 先生



## コース分け説明会 12月1日(金)



西洋史教員によるコース説明

二〇一七年度 学会行事

春季学会旅行 三月二十七日(月)～二十八日(火)

金比羅山・大山祇神社  
春季学会旅行では、四国・瀬戸内方面に行きました。宿泊は道後温泉です。

一日目には金比羅山に足を運びました。本宮まで続く終わりの見えない石段に何度か心が挫けそうになりながらも、何とか登りきることができました。空がよく晴れ渡っていたので、山頂からの景色は素晴らしい、達成感で満たされました。周辺にはうどん屋が軒を連ねており、みんな本場のうどんの美味しさに驚いていました。

二日目には大山祇神社と倉敷美観地区を訪れました。大山祇神社は海の神様である大山積神が祀られており、本殿や拝殿は重要文化財に指定されています。境内はとても静かで心が洗われたように思えました。また、日本一の武具館として知られる大山祇神社宝物殿も訪れ、展示品を見ながら昔に思いを馳せました。倉敷美観地区では自由時間を設け、各自で思い思いの時間を過ごして楽しみました。日本の伝統的な建造物と西洋風の建造物が混在しており、お互いがお互いを引き立て合っているように見えました。名物の和菓子やフルーツを楽しんでいる人も多く見られました。

観光だけでなく、移動中のビンゴ大会や宿での美味しい食事、二次会での学年を超えた交流などレクリエーションも非常に盛り上がりました。お腹も心も満たされた、充実した二日間でした。

新入生歓迎会 四月二日(日)

少し肌寒さが残る中、京都女子大学では入学式が挙行され、史学科にも新たな仲間が加わりました。教室にやって来る新入生の不安そうな面持ちから、

こちらにもその緊張が伝わってきました。去年の自分がとても緊張していたことを思い出し、普段よりも細やかな気遣いを心がけました。

史学科や史学会の説明、役員の自己紹介を行いました。特に史学科で学べることや私たちが学んでいることを伝えていた時は、とても真剣に話を聞いてくれていて熱意を感じました。また史学会に関する説明の際には度々笑いが起こり、新入生の笑顔を見ることができました。彼女たちの不安を少しは和らげることができたのではないかと思います。

新入生にも気軽に頼ってもらえるような史学会にしていこうと改めて決意しました。

新入生歓迎バスツアー 四月五日(水)

金閣寺、龍安寺

本願寺参拝後、新入生は毎年行われるバスツアーに参加します。本年度の行き先は、金閣寺と龍安寺の二ヶ所でした。新入生の皆さんはそれぞれのバスに分かれて乗車します。もちろん、史学科の先生方も引率されることになっています。

移動中のバス車内では、毎年恒例となっている新入生の自己紹介が行われます。この自己紹介では笑いが起こることも多く、終始温かな雰囲気のもと行われました。はじめは緊張してしまふ新入生もすぐお互いの打ち解けることができると思っています。趣味の合いそうな人、同郷出身の人などを見つけられるよい機会となっています。

目的地である金閣寺や龍安寺では、新入生のみならず先生方やバス車内の自己紹介で気になった人に声をかけて一緒に境内を見て回る姿が多く見られました。初対面とは思えないほど楽しく会話をしている様子はとても微笑ましいものでした。

本年度に限らずバスツアーは、新入生にとって新たな学生生活のスタートをきる良い機会となっていることと思います。

春季公開講座 五月二六日(金)

J三二〇教室

京女で学んだハワイの日系人

本学教授 坂口 満宏  
ピョートル大帝期におけるロシア君主儀礼  
宮城教育大学教授 田中 良英

夏季学会旅行 八月七日(月)～八日(火)

能登・金沢

夏季史学会旅行では石川県の金沢方面へと向かいました。

一日目は、千里浜の美しい景色を眺めながら、能登ガラス美術館、のどま水族館へ向かいました。能登ガラス美術館では沢山のガラスで作られた服や靴があり、煌びやかな空間が形成されていました。美術館の屋外庭園にはガラス彫刻がある洋風庭園と、枯山水の和風庭園があり、対照的な二つの庭園を楽しむことができました。のどま水族館ではイルカ・アシカショーの観賞や、ウニやヒトデなどに直接触って観察しました。トンネル水槽では、自然の光が差し込み、まるで海にいるかのような体験ができました。

二日目はまず東山ひがし茶屋街に向かいました。昔の風情を感じながら、各自いろいろなお店に入り金箔ソフトを食べたり、お土産を買ったりしました。次に日本三名園の一つである兼六園に向かいました。日本最古の噴水は池の水面との高低差を利用した自然の水圧で吹き上がっており、江戸時代の技術レベルの高さを感じさせられました。最後に向かったのは忍者寺として知られている妙立寺で、落とし穴や隠し階段等、様々な仕掛けに驚きました。

また宿泊した旅館での美味しい食事、カラオケ会、二次会での普段あまり関わらない他学年の人たちや先生との交流、バス移動中でのビンゴ大会、映画鑑賞等、観光以外の部分も盛りだくさんで、二日間有意義に過ごせた旅行となりました。

卒業論文中間発表

日本史 一〇月三日(火)～五日(木)  
東洋史 一〇月九日(月)～一〇日(火)  
西洋史 一〇月十一日(水)～十三日(金)

### コース分け説明会 二月一日(金)

J三二〇教室

本年度も一回生が対象のコース分け説明会が行われました。コース分け説明会は、一回生が二次における日本史、東洋史、西洋史の専攻コースを決めるためのオリエンテーションです。一回生がお弁当を食べながら、先生方の説明を受けるという形をとります。

先生方はご自身の専攻やそれぞれのコースで学ぶことについてユーモアを交えながら楽しく紹介してくださり、終始和やかな雰囲気の中で説明会が進んでいきました。一回生は今後自分がどのように専攻を選ばよいかを考えるために、楽しみながらも真剣に説明に耳を傾けているようでした。

一回生にとっては今回のコース分けは重要な分岐点で、自分が大学で何を学びたいのかを考える良い機会だと思います。悔いの無い選択を期待しています。

### 卒業生予餞会 二月二〇日(水)

佐野屋

卒業論文の提出締切日、恒例の予餞会が行われました。本年度は京都駅前ホテル佐野屋にお世話になり、先生方や多くの四回生が参加して、これまでの努力の日々を称えあい、とても賑やかなひと時となりました。

卒業論文は、京都女子大学で過ごした四年間の総決算です。今年度は図書館の新設に伴い、史料や論文の収集が困難状況にありました。しかし、先生との相談を重ね、史料や論文と向き合い、時間を問わず学生研究室で作業をする等、卒業論文の執筆に真剣に取り組まれました。締切の直前までの達成感に満ちた顔は、充実した学生生活を表すとともに、卒業論文完成の実感を湧かせるものでもありました。

後輩たちも、学生生活が爽いのあるものとなるように努力を重ね、皆がこの日を晴々とした笑顔で迎えられることを祈ります。

### 二〇一七年度 史学科講義題目

#### 史学科共通

#### 講義

- 日本史概論A 告井准教授
- 日本史概論B 坂口教授
- 東洋史概論A 松井教授
- 東洋史概論B 箱田准教授
- 西洋史概論A 桑山教授
- 西洋史概論B 本田教授
- 考古学 梶川講師
- 民俗学 木村講師
- 日本美術史 山本講師
- 東洋美術史 竹浪講師
- 西洋美術史 吉田講師
- 歴史地理学 中村講師
- 人文地理学 上杉講師
- 自然地理学 谷端講師
- 地誌学 古関講師

#### 講読

- 史学外書講読Ⅰ 坂口・谷口教授、木下講師
- 史学外書講読Ⅱ 谷口教授
- 漢文 菅沼・馬場・前田・森永講師
- ラテン語 桑山教授、岸本・佐野・疋田講師

#### 演習

- 史学基礎演習A 坂口・松井・母利・山田教授
- 史学基礎演習B 桑山・谷口・早島・本田教授
- 梅田・告井・箱田准教授

#### 日本史コース

#### 特殊講義

基礎から学び直す東アジアの近現代史

—日本の植民地問題を軸にして—

京都の近代

—その産業化と都市化をめぐる諸問題—

- 坂口教授
- 近世の武家社会の構造
- 書跡資料、概論
- 母利教授
- 綾村教授

室町幕府とその時代

古代史論文の書き方

古代京都の諸様相

神仏分離への道

陰陽道から見る日本宗教史

武士の列島展開に見る中世成立期の日本社会

「河内源氏」にみる武士勢力の成長

#### 講読

- 日本史講読Ⅰ 母利・梅田准教授、
- 日本史講読Ⅱ 佐竹・高井・田中講師
- 日本史講読Ⅲ 早島教授、告井准教授、
- 日本史講読Ⅳ 木本・中村・吉住講師

日本古文書Ⅰ

日本古文書Ⅱ

- 綾村・母利教授
- 早島・母利教授

#### 演習

日本史入門演習

日本史演習Ⅰ

日本史演習Ⅱ

- 綾村・坂口・早島・母利教授、
- 梅田・告井准教授
- 綾村・坂口・早島・母利教授、
- 梅田・告井准教授
- 梅田・告井准教授

#### 東洋史コース

#### 特殊講義

中国中世仏教史の諸相

漢文大蔵経の歴史

朝鮮古代史を考える(統一新羅史)

古代東北アジア史を考える(『魏志』東夷伝の世界)

一三—一四世紀の西アジア

イスラーム期イランの政治・文化史

近代米中関係史概説

現代中国外交史

中国出土文字史料の検討

周代史

マテオ・リッチの軌跡

マテオ・リッチの後継者ジュリオ・アレーニの軌跡

講読

東洋史講読Ⅰ 箱田准教授、角谷講師  
東洋史講読Ⅱ 松井教授  
東洋史講読Ⅲ 村井講師  
東洋史講読Ⅳ 岡本講師

演習

東洋史入門演習 谷口・松井教授、箱田准教授  
東洋史演習Ⅰ 谷口・松井教授、箱田准教授  
東洋史演習Ⅱ 谷口・松井教授、箱田准教授

西洋史コース

近代イギリス社会における政治儀礼について考える 本田教授  
英領インド帝国における政治儀礼について考える 本田教授

古代ギリシアの「国際社会」 岸本講師  
フラウィウス朝期のローマ帝国 桑山教授  
中世初期・中期フランスの権力社会と市場経済 山田教授

中世後期フランスにおける王権と諸侯 頼講師  
アメリカの独立革命（対英独立戦争）とアメリカ 常松講師  
合衆国の誕生 常松講師  
一八〇〇年の「革命」とアメリカ共和主義の発展 常松講師  
コシチューシニコとその時代 小山講師  
もう一つの宗教改革 小山講師  
ロシア帝国と植民地 伊藤講師  
歴史家レナルと一八世紀フランスにおける世界史 王寺講師  
叙述の勃興

講読

西洋史講読Ⅰ 山田教授、青木講師  
西洋史講読Ⅱ 本田教授  
西洋史講読Ⅲ 山田教授、園屋講師  
西洋史講読Ⅳ 桑山教授

西洋史入門演習 桑山・本田・山田教授

西洋史演習Ⅰ

桑山・本田・山田教授  
西洋史演習Ⅱ 桑山・本田・山田教授  
〔注〕Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特殊講義については、同一担当者前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇一七年度 卒業論文題目

日本史コース

青木 雛子 伊東茂光と被差別部落での融和教育  
荒井 千乃 戦後沖縄社会と女性の主導性―収容所生活が与えた影響―  
池ヶ谷佳奈 落書から見る田沼時代の民衆の政治観  
池田 小春 近世祭祀行列に見る江戸の民衆文化  
磯岩さんご 間部詮房時代の家臣団形成とその変遷  
市岡 真琴 地方民主主義「石見タイムズ」からみる戦後の竹島と日韓関係  
岩田まりな 彦根藩藩校弘道館の改革と中川禄郎  
大空 優生 陸軍の花柳病対策と慰安所の効果  
岡村 悠加 平安時代の皇位継承と皇統意識の変化  
小川 優季 江戸時代後期における宗像郡医師組合の実態  
小倉 美香 兵庫商社の運営実態  
小田 果林 日本の古代国家における「射」の儀式  
尾山 理子 殯の空間的要素から考察する古代天皇の喪葬の画期  
甲斐さととり 大山崎神人と日使頭役  
勝山奈々美 日本近代農業における温室栽培の影響  
門田 怜子 マトの普及―  
丹羽長秀の若狭支配における一職支配

金山 千賀 『拾遺往生伝』にみる三善為康の往生論

観

金山 柚佳 播州姫路藩領龍野船座における請負相論―惣兵衛の事例を中心に―  
紙森 瑞紀 歴代遷宮の原因と終焉の契機  
河嶋奈々恵 彦根城修築の実態―災害からの復旧を中心に―  
久葉 仁美 名所案内にみる近代京都の西洋風建築  
齋藤 寧々 奥羽列藩同盟における「東北朝廷」構想の再考  
齊藤 水菜 北条高時政権における合議制  
鷺坂 侑里 相嘗祭についての二、三の問題  
佐藤 寛子 京都長崎問屋の動向と役割―近世中後期を中心に―  
六戸 志帆 明治期における日本生糸産業の発展  
信藤明日香 新選組の組織編成―「壬生浪士組」から「新選組」になるまで―  
高原 真由 女子学生は戦争を選んだのか―教科外教育組織を中心に―  
田中 里美 安政江戸地震における災害情報誌の情  
田邊 祐佳 中世前期における梟首について  
大同あさひ 町触と都市構造からみる町の役割の変  
鳥谷 佳音 淀藩弓術師範竹林家と三十三間堂通し矢  
豊田 有希 近世農村女性の労働  
土路生 葵 産業立市とツーリズム―呉市にとつての国防と産業大博覧会―  
中山 美悠 幕末期福井藩における航海術政策―人材育成と強兵論の関わり―  
長野 冴香 丹波内藤氏の二百年  
西端 千恵 山村集落の内発的發展による町おこし―京都府美山町を例に―  
野原 京子 中関白家の軌跡―藤原伊周の生涯から―  
野村 知美 『のらくろ』の戦前・戦後の作品の違い―「戦後『のらくろ』」は本当に「調べる価値がない」のか―  
橋野いおり 戦時下の初等教育による国民育成―豊

戦時下の初等教育による国民育成―豊

中市立桜塚国民学校の学級日誌を讀み解く―

濱 明日香

尊勝寺灌頂について

廣田 千晶

近世の今切関所の改め―女改めを中心―

廣田 奈々

関ヶ原の戦いと真田家―真田家宛ての書状を通して―

藤野 友梨

紀州地方における鎮守の神―かつらぎ町丹生都比売神社を例に―

前波 侑花

「産業」と観光の大博覧会」と金沢の観光

松倉 志帆

日本古代の考選儀式と考選儀式における木簡と紙の文書の関係

松本 幸恵

吉田稔磨と妻木頼矩の幕長融和活動

湊 悠香

江戸時代における住吉大社を支えた人々

實成あゆみ

寛政改革と出版統制

森下 朝子

江州浅井氏の菅浦支配の実態

森本 彩音

大和におけるおかげ参りと施行―文政十三年を中心に―

山田 香葉

ステイヴストンの漁者団体に見る日系漁者とその世界

山本祐利菜

繋がれていく四国遍路と接待

山脇 志穂

一九二〇年代半ばから一九三〇年代半ばにおけるカフェーの変遷―カフェーの取締とその影響に注目して―

吉村歩乃美

天保期の京都における施行―熊谷直恭「施行日記」の分析―

与田 萌乃

南北朝時代における絹生産―東大寺領美濃国大井荘を例に―

米田 桐子

鳥取藩農村部における出産の実態―会見郡の史料を中心に―

和氣 祐子

奈良奉行所における手力士の業務実態―「常用取斗寛」を参考に―

和田 祐希

蒲生君平と宮内庁の天皇陵治定―双方の見解からみる陵墓治定の特質―

渡辺 瀬梨

「竹取物語」における中国の影響

東洋史コース

池上 美幸

戦国末期の秦國

上野 雅

古代中国における身体論と養生法

梅山 歩美

儒教社会を生きたる女性たち―李氏朝鮮時代を例として―

大崎 優希

『神農本草経』に見える古代中国の薬

草川 夏穂

呂后像の変遷

黒田美希子

現代イラクの混乱について―歴史的考察―

柴田 眞奈

中世イスラムの音楽論―イブン・スィナーを中心に―

清水 優子

禪譲と曹魏の正統性

杉山 葉子

潤格と印刷技術の革新から見る海上派発展の本質

鈴木日向子

日本統治時代の台湾における教育と台湾人意識

鈴木 友理

『婦女雜誌』にみる女子学生の表象と現実

多田江利佳

インドネシアのムスリマのジェンダー

鶴見 恰加

高句麗滅亡の内的原因―淵蓋蘇文を中心に―

中山ありさ

近代中国における青幫の変容―張仁奎と杜月笙の比較から―

西尾 友里

一九四八年パレスチナ難民発生を巡って―イスラエル国内における論争―

仁里 玲

古代中国の「たましい」

平 このみ

日清戦争における北洋海軍の敗因―東洋一の艦隊はなぜ負けたのか―

三田華奈子

ブーラーク印刷所のクルアーン刊本化事業―カイロ標準版成功の理由―

西洋史コース

赤羽瑠梨香

近代ドイツにおける英雄像

上野 あい

中世の男

大隈 瑞希

組織の中のアイヒマン―裁判から浮かび上がる「服従」のシステム―

大場 玲奈

アメリカの近代化と秘密結社―秘密結社がアメリカ社会で果たした役割と

は―

奥村 郁美

隣人たちの魔女裁判

神田 愛弓

中世イタリアにおける慈善概念と捨児施設―インノチエンティ捨児養育院を例に―

木村 瑠花

改革の混乱を生きた人々―イングラ

小山 藍

ド宗教改革一五四〇―五〇年代―

坂口留美子

二〇世紀前半ドイツの女性史―イデオロギーと現実の矛盾―

坂田 真帆

オスカー・ワイルドのダンディズムとセクシュアリティ

澤田 奈摘

中世前期フランク王国とその周辺の知的運動

嶋本 夏帆

ウル第三王朝における王の神格化

清水 彩恵

古代ゲルマン人の湿地埋葬

下高谷愛実

フランス革命と地方都市リヨン

菅 沙恵子

ジャズの発展とガーシュインが果たした役割

仙石 泰菜

シチリアからアメリカへ―イタリア系移民と犯罪組織―

田中 萌香

コリントス戦争とスパルタ

玉川 千尋

一二世紀のフランドル伯と都市

恒次 悠里

中世フランスの自由―壁は市民を守る―

外山なつみ

「異分子」としての障害者―ナチス・ドイツの「異分子排除」とその克服―

永藁 知実

ヘシオドスと古代ギリシア社会

西垣 愛佳

スカンディナヴィアのキリスト教化

早坂 愛美

パトロンのルネサンス

日下 めい

皇帝ユスティニアヌスと聖ソフィア聖堂

本間日南子

スコットランド宗教改革とジョン・ノックス

松田 侑子

ゴルバチョフのペレストロイカ

松永明日佳

古代ギリシアにおける競技会とその衰退

祝祭・儀礼からみる一六世紀フランスの都市と王権

中世フランスの宮廷料理人と宮廷文化

三宅 唯真 一四世紀後半フイレンツェのチオンピの乱  
村瀬万里子 プリガンタツジヨの反乱とその影響  
——統一イタリアの南北間の懸隔において——

桃津 郁花 ハイナリヒ獅子公の領邦政策と都市建設  
——リユーベックとシユヴェリンを中心にして——

守山由里菜 エウダイモン・アラビアの衰退  
山内沙絵子 一八五一年ロンドン万国博覧会を支えた人々

山田 早苗 中世ヨーロッパの森  
山田 侑佳 一九世紀イギリスの鉄道と鉄道建設労働者

山本 佳奈 ボーランドにおけるロマン主義と独立運動  
吉川 未優 王の都に生きる者——中世中後期のパリ市民——

## 二〇一七年度 大学院文学研究科

### 史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目

#### 特論

日本古代史料読解 告井准教授

歴史資料関係論文の分析 綾村教授

歴史資料関係史料の分析 綾村教授

中世から織豊期にかけての基本的文献研究 早島教授

中世から織豊期までの基本的文献を読む 早島教授

神仏分離への道 梅田准教授

陰陽道から見る日本宗教史 梅田准教授

高橋秀直『幕末維新の政治と社会』を読む 母利教授

笠谷和比古『近世武家社会の政治構造』を読む 母利教授

鶴見良行者『ナマコの眼』を読む 坂口教授

地域の記録を読む  
古文書の理解と読解  
古記録の理解と読解  
周王朝の国制研究  
周代史

近代中国における国際法受容  
近代中国外交史  
明代キリスト教文献の検討  
イエズス会のアジア布教

前近代アラブ地域のウラマー  
イスラーム文化における口承の尊重  
※ロシア帝国と植民地  
※歴史家レナルと一八世紀フランスにおける世界史叙述の勃興

ローマ帝国の神々  
ヨーロッパ中世初期市場地の研究  
中世後期・近代初期の市場発展とその変容

一九世紀後半〜二〇世紀初頭の英米関係の社会的側面  
※コシチューシユコとその時代  
※もう一つの宗教改革  
(※は学部共通)

#### 演習

日本史演習Ⅰ・Ⅱ 告井准教授

日本史演習Ⅲ・Ⅳ 綾村教授

日本史演習Ⅴ・Ⅵ 綾村教授

日本史演習Ⅶ・Ⅷ 梅田准教授

日本史演習Ⅸ・Ⅹ 坂口教授

日本史演習Ⅺ・Ⅻ 早島教授

東洋史演習Ⅰ・Ⅱ 松井教授

東洋史演習Ⅲ 檀上講師

東洋史演習Ⅳ 箱田准教授

東洋史演習Ⅴ・Ⅵ 谷口教授

東洋史演習Ⅶ・Ⅷ 桑山教授

東洋史演習Ⅸ・Ⅹ 山田教授

東洋史演習Ⅺ・Ⅻ 本田教授

れ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。その他は前後期共通。

### 史学専攻博士後期課程講義題目

#### 特殊研究

日本史特殊研究Ⅱ 綾村教授

日本史特殊研究Ⅲ 母利教授

日本史特殊研究Ⅳ 坂口教授

西洋史特殊研究Ⅲ 桑山教授

研究指導 綾村・早島・桑山教授

### 二〇一七年度 博士論文題目

半澤 典子 戦前期ブラジル・サンパウロ州ノロエステ地方と日本語新聞——香山六郎と聖州新報——

### 二〇一七年度 修士論文題目

飯村 円 中国古代の夏と禹

井上こころ 中世末期都市ベルンの門閥・互恵・領域支配

岡村 美幸 バルカ家のカルタゴ支配

小島 彩世 楽器贈答の特質——平安期から鎌倉期を中心にして——

田口 愛美 平安中期における御遊および管弦会——成人儀礼を視座として——

日種 真子 五山官寺制の歴史的展開と賜額

蘭 雪梅 明代漳州月港の開港と徴税体制——海防館から督餉館へ——

### 二〇一七年度 大学院行事

卒業論文発表会 四月二五〜二七日

練習艦隊参加艦の新聞に見る「艦内新聞」発刊起源とその定義——浅間・八



組織する。

(事業)

第五条 本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

- 1 機関誌『史窓』の発行。
- 2 講演会、研究発表会。
- 3 その他必要な事業。

(代表)

第六条 本会に代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会)

第七条 『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。

- 1 編集委員長 一名
- 2 編集委員 若干名

(総会)

第八条 本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。

(事業費)

第九条 本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもってこれに当てる。

(会則の改廃)

第十条 この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。

附則 この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

(二〇〇三年三月二〇日制定)

第一条 京都女子大学史学会(以下「本会」という)は、機関誌として『史窓』(以下

「本誌」という)を刊行する。

第二条 本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。

第三条 原稿は、未発表のものに限る。

第四条 本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。

第五条 執筆要項などの細則は、別に定める。

第六条 この規約の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を得て実施する。

附則 この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

『史窓』第七五号をお届けします。本号は論文三本、研究ノート三本、史料紹介一本と充実した内容となりました。

論文では、二〇一五年に本学に着任された本田先生が、二〇世紀初頭のインド社会統治のため実施されたジョージ五世によるデリー・ターバーの意義を考察され、特別研修者の小南氏は円仁の入唐求法による成果を論じています。佐竹先生は近世公家家業の継承を論じています。いづれも手堅い実証研究です。研究ノートでは、博士後期課程の星野氏はエジプト人神官マネトンによる歴史書の性格の再検討を、河内先生は豊臣政権による東山大仏建立意義の再検討、特別研修者の鷲見氏は天保飢饉期の「仁風便覧」発刊経緯の分析を掲載されています。また谷口先生のウマリー研究会による訳注も八回を数えております。地道な息の長いご研究ですが、なかなか理解されにくいイスラム社会についての研究成果を、いづれ単著の註釈書としてまとめられることを期待しております。

前号でお知らせしましたように、本号からは論文と研究ノートの掲載に際しては、編集委員と関係専門分野教員による査読制を導入しております。今後

とも各研究分野での研究史に残る意欲的な論考のご寄稿を期待しております。

なお、本号から発行日が三月一〇日となりました。『史窓』は、第七〇号から京都女子大学学術情報リポジトリ(京女AIR)でも公開しております。(母利美和)

『史窓』掲載論文・資料等の京都女子大学学術情報リポジトリへの登録と公開申請について

京都女子大学では、二〇一三年度より、学内の学術研究成果を電子的に収集・保存して学内外に無償で公開し、広く社会に提供することを目的とした「京都女子大学学術情報リポジトリ(京女AIR)」の運用を開始しました。それにとまない、『史窓』におきましても、執筆者全員に対し、あらかじめ同紀要掲載論文・資料等のリポジトリへの登録と公開への申請をお願いしております。この登録と公開申請の手続きは、公開に必要な複製権と公衆送信権の許諾をお願いするもので、著作権の譲渡をお願いするものではありません。

今後、本誌に投稿される方のご理解とご協力をお願いいたします。

執筆者紹介

小南 妙覚 本学特別研修者  
佐竹 朋子 公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会学芸員  
本田 毅彦 本学教授  
河内 将芳 奈良大学教授  
鷺見 敦子 本学特別研修者  
星野 宏美 本学大学院博士後期課程  
谷口 淳一 本学教授

編集委員

母利 美和 (委員長)  
桑山 由文  
箱田 恵子  
早島 大祐  
本田 毅彦

史窓 第75号

二〇一八年三月五日 印刷  
二〇一八年三月九日 発行

編集 『史窓』編集委員会  
発行 京都女子大学史学会

〒606-8585 京都市東山区今熊野北日吉町三五  
京都女子大学文学部史学研究室内  
〒606-8585 (〇七五) 五三一―一九一〇〇  
代表者 本田 毅彦

印刷 株式会社 印刷書同 朋 舎  
〒605-0846 京都市下京区中堂寺鍵田町二  
〇七五 (〇七五) 三六一―九一二一